

授業科目名： 実践英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ダニエル・ウッズ 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	元横浜市教育委員会英語指導主事助手 公立中学校での英語指導に関して、ネイティブの立場から教員研修に携わる。また、私立中学校・高校において英語を用いたコミュニケーションに関する指導も継続して行っている。		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p><u>英語で「聞く、読む、話す、書く」ための実践的スキルを磨こう！</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解できる。 ・様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解できる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 ・複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>実践英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを通して、中学校及び高等学校において、生徒の理解の</p>			

程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。そのうち、実践英語コミュニケーションⅠでは、ネイティブスピーカーによる授業を通して「聞く、読む、話す〔やり取り・発表〕、書く」のそれぞれについて実践的な英語運用能力を磨く。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：人間の体、自分、家族などについて（読む・書くを中心に）

第3回：一日の行動について（読む・書くを中心に）

第4回：食品、料理方法について（読む・書くを中心に）

第5回：目的地までの行き方を調べ、道案内をする（読む・書くを中心に）

第6回：バスや電車に乗って目的地に行く（読む・書くを中心に）

第7回：自分の出身地について（読む・書くを中心に）

第8回：職業について（読む・書くを中心に）

第9回：興味のあることについて（読む・書くを中心に）

第10回：将来の夢について（読む・書くを中心に）

第11回：自分について（聞く・話すを中心に）

第12回：道案内をする（聞く・話すを中心に）

第13回：興味のあることについて（聞く・話すを中心に）

第14回：将来の夢について（聞く・話すを中心に）

第15回：まとめ（学んだことを整理し、今後活かせるよう自己課題を明らかにする）

定期試験

*スクーリングでは第11回～第14回を中心に、すべての内容を包括的に取り上げる。

教科書

(1) W.L.クラーク『アメリカ口語教本・中級用(最新改訂版)』研究社

(2) W.L.クラーク『アメリカ口語教本・上級用(最新改訂版)』研究社

※自身のレベルに応じていずれかを選択購入

参考文献

特になし

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。